

●特別インタビュー

●未来から発想して

●お金の流れをつくりだす



渋澤 健さん シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役
日本ファンドレイジング協会理事

Q 渋澤さんのお話をとても楽しみにしていました。社会にいいお金の流れをつくることされたきっかけは?

A 9.11(ナインイレブン)ですね。当時、シアトルに足留めされ、きれいな青空なのに一機も飛行機がありませんでした。飛行機が飛ばずに、人が動かず、物が動かない。私が生計を立てていた金融は平和の上に成り立っている業界だと実感したんです。それは自分にとっても危機感でもありました。そして非常に印象的だったのは、自発的に市民が公園に集まり、大きな地球のオブジェの周りに何千人も、多様な人種・年齢、中には頭にターバンを巻いている人たちまでいて、明らかにアメリカ人の感性からするとその時点では敵だったんでしようが、その人たちがお花を捧げた時に、拍手が起こり、まさに市民社会と感じました。NYで何千人も命を落とした災禍と平和のために何をすればいいかわからないけれど、とにかく公園にきたんですね。実は、家に引きこもらず、一人ひとりが

自ら行動したことが平和の回復につながったと思っています。また、日本人の想像を超える高額の報酬を稼ぐ、私が6ヵ月前まで勤めていた米ファンドの大ボスは、会社の近くの消防署の隊員が世界貿易センターで命を落としたことを知り、早速、遺族のために基金を設立したのです。別に誰かが呼びかけたのではなく、自主的に必要だと思ふところへダイレクトに託している。アメリカではお金が社会のために流れるしくみが自然とできていることを再確認できました。

その1年後に知り合ったアメリカ西海岸の運用会社が日本で事業展開に関心を示しました。私は彼らの事業提携する際に日本の機関投資家から募るファンドの成功報酬の一部を、日本の社会起業家に還元していただけないかと提案しました。このプログラムをSEEDCAPと名付けました。2003年の運用から生じた成功報酬を基に、2004年から助成を始め、年々に運用成績とファンドの資産規模と共に、助成金も拡大していきました。ところがリーマンショックの2008年

に、機関投資家の担当者が「本当にいいファンドで心苦しいですが会社の方針です」とすべて解約されたんですね。助成の需要があるのに続けられないのは非常にじくじたる思いでした。そして担当者はいいと思つても、組織に通らない。組織と個人の想いの違いを痛感しました。この数年前から、個人投資家との接点も増えていたのですが、こちらでは、自分のお金を自分で判断して、みんなイキイキしています。話をしていると自分が充電される感じになるのです。この延長がコモンス投信につながったんですね。

Q コモンス投信のことについてお聞かせください。

A コモンスは個人の資産形成を、長期投資を通じてお手伝いしている会社です。自分自身の長期投資のきっかけも9.11と同時期でした。自分の長男が生まれ、最初に抱っこした時に、小さい体に予想以上の重さを感じました。その赤ちゃんから、だんだん人間らしさが出てくるの

を見ていて、この子が大人になったとき、どんな社会になっているか、世の中はどんなふうになっているのか、という長い目線を持つようになってきました。二十代、三十代は、自分自身を軸として世の中を見ていたので、これは自分にとって大きな意識の変化でした。実際何ができるのかわからないが、子どもへの想いの一端として長期の積み立て投資をしようと思ったんですね。これは毎月、子供の名義の銀行口座から定額が、投資信託に投資されるということですが、「ドルコスト平均法」と言つて、投資の基本中の基本ですが、それほど多くの日本人が実施していません。一旦、設定すると、後は楽な投資です。市場のレベル感やタイミングを考へなくてよいから、本業を持ちながら積み立て投資ができる。デイ・トレーディングに集中してしまうと、本業にも悪影響を与えてしまいますから、積み立て投資の場合、市場が上がればうれしいし、今みたいに下がっていても、平均コストが改善するので、冷や汗も全然かかない。しかし、「長期」とは人によって、定義が

様々です。半年かもしれないし、1年、2年かもしれない。あるいは、5年、10年。そう考えた時に「長期投資」という言葉は、共通言語になっていないのです。だから、自分は、想いを世代が越えるには30年という「長期」な投資期間を明示しようと思つたのです。つまり、コモンス投信は、コモンス30ファンドという30年の投資目標を持った運用会社なのです。この会社は、組織を統治する価値観ではなく、一人ひとりの個人の価値観で30年後に繁栄しているであろうと思われる30社の企業価値を一緒に考えて、一緒につくっていくべきでしょうという構想です。これに賛同してくださった個人の投資家が日本の全都道府県にいらつしやることを確認できました。また、私たちが運用する口座の内、75%が積み立て投資をしてくださるので、毎月資金が流入するということがありたい傾向になっています。少しずつですが、毎月、資金が増えることは、強いですよね。賛同する仲間が増えれば、どんどん増える要素があり、日本全国で30年後という不確定な将来に、今日から少しずつ未来に積み立てられる人がいるということは本当に心強いです。

Q 30年後の社会をイメージして、そこに向けてつくりだしていくんですね。

A 今のところ、ファンドを設定してから一年ちょっと経ちましたが、全都道府県から、1500人以上のお客様がいらつしやいます。ただ、ビジネスモデルとして成功するには10万人単位ぐらいの人数で、まだ全然これからです。しかし、もし、日本の1億3000万人の1%の方が賛同していただければ、私たちの会社は

大成功するようになり、10%を越えれば、日本が大きくは変わります。また、コモンス投信の30年投資は、日本ファンドレイジング協会の「寄付文化の革新」とつながる気がしています。30年投資と寄付とは両方とも、今の自分のためのお金ではなく、未来への投資です。もしかすると自分にはねかえつてこないかもしれないかもしれませんが、自分の子どもや孫にいい社会を残すことにつながる。たまたま「残った」ではなく、意図的に「遺す」となるとですね。またコモンス投信では、売上1%を、SEEDCAPとして、社会起業家を助成するプログラムにあてています。10年ぐらい前に、中国の方に、中国でいま何が起こっているのかわかりますかと問われました。いいえ、と正直に答えたところ、「13億人の中国人が、今日より明日が必ず良くなると思つて、毎日寝ている」と言われました。この話を聞くまで私は中国が日本と比べて10倍の規模という差はあまり気にしていませんでした。しかし、この目線の違い、これには衝撃を受けました。規模が10分の1でもいいから、日本は、いろんな意味で明日は今日よりよくなるという目線を取り戻さないとだめだと痛感しました。

レイジング」もそれを呼び起こす機会として存在するという話をされていたんですね。長期投資も30年後をイメージしながら、そこを支えていく企業を長い目で支えていく。寄付も一人ひとりが主役になつてお金の流れをつくりだして社会をかえていくイメージですね。やはり長期投資と社会を良くしていく寄付という流れとはすごく親和性があるなあというところと、本当に混沌としている時代だからこそ、未来から逆算して考えられる個人を一人でも多く増やしていく。日本ファンドレイジング協会も実は設立の時に47都道府県から発起人をいただいたというのがすごいエネルギーになっていて、もう絶対値以上に我々の支持者はすべての都道府県にいるんだというところから、何かパラダイムシフトが起こるんですね。日本中一人ひとりに元気にさせたいなあというように。そのエネルギーが循環して動いて行くんだという気がしています。お話を伺つて改めてNPO自身も意識を変えていかねばならない、そしてビジネスセクターと一緒につくりあげていくことを日本で実現していきたいと思

Q 私たちも智恵を絞ります。寄付が進む社会をつくるための助成プログラムとか、何か30年後を見通して発想して提案しているNPOに助成するとか、そしてそこに対して協会としてもサポートしていくとかですね。

A そうですね。日本ファンドレイジング協会と一緒に何かやりたいですね。例えばコモンス投信の新しいしくみとして例えば半分は、積み立て投資で自分のところに残り、半分は協会のほうに行つて寄付のほうに回るようなしくみができるとか。

Q 私たちも智恵を絞ります。寄付が進む社会をつくるための助成プログラムとか、何か30年後を見通して発想して提案しているNPOに助成するとか、そしてそこに対して協会としてもサポートしていくとかですね。

A 本日はありがとうございました。



ファンドレイジングジャーナルに目を通す渋澤氏

コモンス投信会長
渋澤 健さん
しぶさわけん

渋澤栄一の五代目。渋澤栄一は日本の資本主義の父。日本で最初の銀行を設立した時の言葉「演を大河に」を現代で実現するべく、コモンス投信を設立。「三人・渋澤栄一の『富を築く100の教え』」「渋澤流30年長期投資のすすめ 今の『マネー』が次世代の『資産』に化ける」など著書多数。日本ファンドレイジング協会理事、経済同友会幹事およびNPO社会起業推進分科会会長。コモンス投信株式会社は「投資を通じて生活者と優良な企業をつなげることで、次の時代をつくる」という想いのもと、2007年11月に少数精鋭で創られた独立系投信会社。
<http://www.common30.jp/>

※SEEDCAP (Social Entrepreneur Enhanced Development Capital Program) JAPAN
日本社会起業家育成資本プログラムの略